

平成 26 年度 第 1 回武蔵野市環境市民会議 要録

日時 平成 26 年 7 月 31 日 (木) 18 時 30 分から 19 時 45 分まで

場所 武蔵野市役所 412 会議室

出席者 委員 15 名、事務局 7 名

(出席委員：田畑委員長、大江副委員長、飯沼委員、岡部委員、小玉委員、小林委員、小松委員、鈴木委員、中島委員、西上原委員、白田委員、羽鳥委員、花俣委員、村越委員、郡委員)

内容 1. 武蔵野市環境基本計画の改定について  
2. 市内放射線量測定について

配布資料 資料 1 第三期武蔵野市環境基本計画概要版  
資料 2 環境基本計画の位置づけについて  
資料 3 計画期間とローリング・スケジュールについて  
資料 4 環境基本計画改定にあたっての流れ・組織構成について  
資料 5 環境基本計画改定のスケジュールについて  
資料 6 環境基本計画改定に伴う市民ワークショップの開催について  
資料 7 放射線に関する平成 25 年度報告及び平成 26 年度予定について

1. 武蔵野市環境基本計画の改定について

発言者	要旨
事務局	環境基本計画改定の概要を説明。 ・資料 1～6 について。 ・アンケートについて。
委員長	意見、質問をどうぞ
委員	今の説明では、理念先行の形で具体的な部分がわかりづらく感じた。自分が興味を持つ生物多様性に関していえば、長期目標、中期目標、武蔵野市らしい生物多様性に配慮というところで、具体的な設定でないとわからない。 自分は 5 年ほど前に 30 自治体の生物調査結果を集めてデータ集計したところ、熱心な自治体では両生類や虫類、魚類、ほ乳類まで調査しており、必ず出てくる種、山奥でしか出ない種など、星取り表ができた。武蔵野市は中央線に沿って自然が退行した先端に位置し生物種は少ないが、調査の熱心度は町田市と武蔵野市が最高となった。両市では都市化への危機感と、生物種が少なく調べやすいという事情が考えられる。概要版の 3 頁「武蔵野市の生物生息状況」のような情報をもっと具体的に示すとよい。その他諸々、武蔵野市の状況を過去や他自治体との比較なども使って具体的に示すとよい。必要であれば、自分の資料を提供できる。
委員長	そういったデータの整理や、現計画の評価について、事務局の考えはどうか。
事務局	現計画の評価については、次回に示す予定である。 生物調査については現在行っているところで、種の供給基地である玉川上水やその周辺の公園などにおいて、昆虫や草木、土壌生物などを調べている。また、グリーンパーク緑道や千川上水、その他点在している緑地、学校ビオトープ、畑などでも調べている。調査自体は NPO 法人武蔵野自然塾に委託している。
委員	5 年前に市民参加で簡単な調査を行った。今年度、武蔵野市の緑を形成している基本的な場所で、両性類や虫類まではいかないが、草本、木本、昆虫など基本的な部分を調べている。
委員	所有地や私有地など、土地所有は関係しているのか。
事務局	区別はしていない。
委員長	調査結果が見えてきたら、本会議の委員に見てもらおうようにしていただきたい。

発言者	要旨
事務局	緑に関する事項は、環境方針3以下に6つほどに分けて整理し、そのほかライフスタイルなどのところでも示している。 環境方針は長期計画に基づいて構成されて、それぞれの下に事業がひも付くようになっている。進捗管理として、「武蔵野市の環境保全」という年次報告書を公表しているので、今後必要な時に配布する。事業の実施状況もその中にまとめている。 具体性の部分については、今後の議論の中で、どこまで計画に落とし込むかを検討していきたい。
委員	計画の構成について。ツリー図にあるように、6つの環境方針の下に行政の取り組みがあり、さらに下には事業名と担当部署が付いて、事業の実施の進捗管理が行えるようになっている。環境なので幅広い部署が関わっており、各部署の事業が進んだかどうかは年次報告書にまとめている。
委員長	個別計画でやってきたことを、この委員会でわかる形に整理して示していただきたい。 庁内組織について、部長レベル課長レベルのほか、若手が参加するとよい。 環境市民会議と専門部署との交流、意見交換があるとよい。 ワークショップは最も重要であり、協働プロジェクトに進むことが望ましい。
委員	今回の改定で、変える部分と変えない部分、例えば環境像は継続するのかなどについて教えていただきたい。
事務局	目指す環境像については、第二期計画からほぼ踏襲してきており、言葉の遣い方などは議論いただくとして、今回も考え方については大きく変更はないと考えている。環境像への道すじについては、目標や項目など、議論いただくこととなる。
委員	市の各計画の間で、関連づけができていない部分が若干ある。法により計画期間等が定められる分野もあり、上位の長期計画と整合がとれなくなる場合がある。現在の長期計画から緑・環境分野が独立し、分野数が5から6に増え、環境と共生するまちづくりが目標のひとつに定められた。今回の環境基本計画は、長期計画調整計画と同時に策定することで考え方の整合を図り、以降は長期計画の策定をみて環境基本計画を策定するというスタイルにしていきたいと考えている。
委員長	位置づけとしては長期計画が環境基本計画の上位にあるが、状況の変化に応じて環境基本計画が独自に進める部分もあるかと思う。それはそれでまとめればよいのではないか。
委員	長期計画は全ての分野を網羅する大枠の方向を定めるもの、各分野にマスタープランがある。
委員長	武蔵野市独自の、他の自治体が参考にするような計画をつくれるとよい。変わる部分もあり、変わらない部分は皆さんに認めていただくような議論を進められるとよい。
委員	ワークショップとアンケートは、市民の声、具体的なことを聞くために最も大事だと思う。 この会議の中で、ワークショップの重要なテーマを決めておく必要がある。それとは別に、アンケートではいろいろな分野を網羅することができる。委員が市と協議してきちんと決めていかなければいけない。
委員長	市民に対して何を聴くのかという点について、事務局の説明をお願いします。
事務局	アンケートについては前回は参考にした案を今回の会議で示し、実施時期・内容について検討したい。ワークショップのテーマについては、応募状況もみながら相談したい。
委員	答えが要望ばかりにならないよう、よく検討しないといけない。
委員	アンケートで聴くことやワークショップのテーマについては、この会議に諮りながら決めていきたいと考える。
委員	ワークショップとアンケートという二つの手法を進めるにあたり、どちらも一般的になってはつまらないため、棲み分けを考えておいてから着手するのが実際的と思う。
委員	アンケートは広く意見を集め、数字で方向性を見ていく。ワークショップについて、最近よくやっているのが、1つは手挙げ方式で、これには元々関心のある方が集まりやすい。 もう1つは、住民基本台帳からの無作為抽出による募集で、多いと9%、少ないと3%程度の参加率である。この場合は、あまり関心はないが市から頼まれたので行くという方が多くなる。そのような状況を踏まえてワークショップの事務局案をつくり、この会議で議論いただければと思う
委員	武蔵野市には町内会がなく、例えばごみ減量をPTAに展開するといった横のつながりが弱い。声なき声がかかっていない。市民活動推進課の地域フォーラムでは様々な団体が集まり、横のつながりをつくっていかうとしている。環境でもそういうところを取り入れるとよいと思う。
事務局	広く意見を聴かせて頂きたいと考えている。

発言者	要旨
委員長	活動している様々な団体から意見をもらうことも重要である。長期計画調整計画で、そのようなことをやっていると思うので、こちらでもやれば望ましい。
委員	自分たちは児童生徒の環境教育に力を入れているところであり、そういう場面に入れるものがあるのもよいと思う。
委員	武蔵野市は自治体の中でも特殊、特別という前提をもったほうがよい。「住みたいまち」として外から見ると憧れることでも、住民はあたりまえのこととっていて、答えが返ってこないのかもしれない。生真面目にバイアスをかけないでやるとおもしろくなって、武蔵野市はいいまちだという前提に立って、それを具体的に明らかにするような形のほうが、皆が乗ってくるかもしれない。

## 2. 市内放射線量測定について

発言者	要旨
事務局	市内放射線測定（資料7）について説明。

## 3. その他（今後のスケジュール）

発言者	要旨
事務局	スケジュールについては、次回は9月から10月に開催予定であり、ワークショップが先行する場合は各委員に連絡する。